

28日 木曜

へブル



- 13:1 兄弟愛をいつも持っていなさい。
- 13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、知らずに御使いたちをもてなしました。
- 13:3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやりなさい。また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人々を思いやりなさい。
- 13:4 結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。
- 13:5 金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない」と言われたからです。
- 13:6 ですから、私たちは確信をもって言います。「主は私の助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか。」
- 13:7 神のことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、覚えていなさい。彼らの生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣いなさい。
- 13:8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。
- 13:9 様々な異なった教えによって迷わされてはいけません。食物の規定によらず、恵みによって心を強くするのは良いことです。食物の規定にしたがって歩んでいる者たちは、益を得ませんでした。

続けて、いかに生きるべきかが述べられています。「旅人」は観光のためというよりも必要があって生活地から離れて移動しなければいけない人というこ

とでしょう。心細かったり乏しかったりするものです。「牢」とは一義的には迫害でしょうが、誰であっても「苦しめられている人々」を思いやることです。「不品行」や「姦淫」にはさばきが伴うことを忘れてはなりません。「金銭を愛する」ような価値観だと、人は生き方がだんだんずれてしまいます。むしろ「あなたを見捨てない」と言ってください、全能の主に信頼する方がむしろ安心です。

主に信頼して信仰を守り通した生き方は、指導者たちのように迫害にも屈しない人々によって証されています。その結末はきよく、力に満ち、多くの人々の励ましとなったものです。そして永遠の大祭司でありとりなし手であられるイエス様は今も変わらないお方です。「恵によって」すなわち恵を求め信頼して、また恵の数々を思い出しながら、信仰の「心を強く」されましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

